

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	子ども青少年課	
施策	2	子ども・子育て、若者への支援	評価 責任者	壽 俊行	内線 6411
小施策	2-5	困難を抱えた子ども・若者の支援	評価 シート 作成者	佐久山 久美子	内線 6412

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
少子化、核家族化などにより、子ども・若者を取り巻く環境は大きく変化し、ニートやひきこもりなどが増加しているため、困難を抱えた子ども・若者が自立するための支援を行う必要がある。		不登校、ニート、ひきこもりなど、社会生活を営む上で困難を抱えた子ども・若者を支援する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
若者		困難を抱えた若者が自立できる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標①	単 位	目指す方向	成 果 点	⇒	成 果 の 要 因 分 析
子ども・若者に関する相談回数(少年相談、(仮称)子ども・若者相談)	回	↗			
当初値 (H25)	27				
H31目標値	100				
H36目標値	100				
			<p>・青少年相談員による相談対応件数が増加し、困難を抱えた子ども・若者の支援を行うことができた。</p> <p>・子ども・若者の支援を行っている団体間の情報共有ネットワークである「もりおかユースネット」への登録団体が増加したことにより、より多くの情報をネットワーク機関で共有することができた。</p>	<p>・相談機能を持つ関係各課や関係機関と積極的な情報共有と連携を図ったため。</p> <p>・子ども・若者の支援団体に対し、広くユースネットへの登録の依頼を行ったため。</p>	
			問 題 点	⇒	問 題 の 要 因 分 析
			<p>・子ども・若者に関する相談件数が少ない。</p>		<p>・子ども・若者に関する相談機関であることの周知が足りない。</p> <p>・関係各課及び関係機関との連携が不足している。</p>

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	<p>★…30年度着手済または着手予定</p> <p>☆…31年度以降の着手を検討</p>
<p>★ もりおかユースネットについて、引き続き登録団体の増加を目指すとともに、各団体へ呼びかけ情報発信を強化する。</p> <p>★ 子ども家庭総合支援センター及び関係各課と連携し、積極的に訪問を行いながら相談に対応する。</p> <p>★ 関係機関に積極的に出向き、子ども・若者の相談機関であることの周知や、支援や相談者の情報共有を図る。</p>	